

# CN ニュース～心不全便り～

慢性心不全看護 ニュースレター NO.5 2015年9月10日発行

## ずっと、そばで・・・

### 慢性疾患を持つ患者さんを支える看護

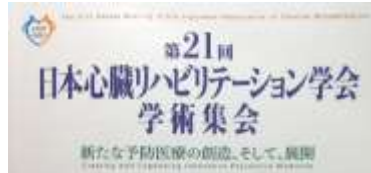
新東京病院、クリニック、ハートクリニックで働く看護師の皆さん、こんにちは！慢性心不全看護の世界を皆さんと共有する心不全便り第5号です。

今回のお便りでは、筆者（細村）が7月に参加しました2つの学術集会でのトピックスをご紹介しますと思います。

**日本慢性看護学会**は、慢性的な心身の不調と共に生きる人々の看護を考える学会です。



会長である大阪医科大学看護学部の林優子先生のご講演では、超高齢化社会において慢性疾患看護に求められるものについてのお話がありました。印象的だったのは、超高齢化社会を迎えるにあたり慢性病を生きる人々の健康のために切れ目のない看護を実践することが求められていること、また、治す医療から支える医療へ、QOL (Quality of life) から QOD (Quality of death) へと医療のパラダイム転換が起きている、というお話でした。



一方、**日本心臓リハビリテーション学会**では、高齢心血管病患者さんが急性期から回復期までの入院・外来の枠を出て、地域社会の中で生涯にわたり心臓リハビリテーションを継続できる医療システムが必要とされている、というお話がありました。

心臓リハビリテーションは運動療法だけでなく、再発予防のための患者教育や社会復帰などのカウンセリングなども含む包括的プログラムです。理学療法士に加え、看護師や栄養士などの多職種が役割を發揮します。

発表では、外来で患者さんとの面談やカウンセリングを継続したり、多職種チームでアプローチを検討したり、地域の訪問看護師さんと情報交換したり、という実践報告がありました。慢性心不全患者さんに対しては継続的で「切れ目のない」、多職種による「質の高い」疾病管理が必要です。

2つの学会ともに、多職種による病棟と外来、さらには在宅、地域との連携により高齢の慢性心

不全患者さんへの生涯にわたる切れ目のない支援が必要であることを強調しています。慢性心不全患者さんは、退院すれば病気と関係なくなるわけではありません。外来通院をしながら、在宅で療養生活を続けています。そのような患者さんに対して私たちも「ずっと」「そばで」寄り添う看護を目指していきたいと思いません。一緒に目指していきたい方、慢性疾患看護や心臓リハビリテーションに興味のある方、仲間を募集中です。ぜひ声をかけてください！

なお、10月には日本循環器看護学会学術集会（両国）、日本心不全学会学術集会（大阪）が開催されます。興味のある方は参加してみたいでしょうか。刺激を受け、日頃の看護へのモチベーションが高まることと思います。



心臓リハビリテーション学会会場に飾られたお花